

# 第15回五色百人一首福井県大会ルール

## 1 対戦方法

- (1) 1対1で対決する。(読みは、1試合が約5分で終了する速さ。)
- (2) **【予選】** 同じ色の参加者、4人で1ブロック(一部3人)とし、総当たり戦3試合を行う。  
各ブロックで順位を出す。勝ち数が同じ者が複数いた場合は、予選で直接対決したときの勝者が決勝進出の権利を得る。ただし、3者の勝ち数が同じで三すくみ状態となった場合は、取った枚数が一番多い者が勝ちとする。3者とも取った枚数が同じであれば、抽選で決勝進出者を決める。リーグ内で棄権等により2人になった場合は、同じ相手と2回対戦し、合計枚数の多い方を勝ちとする。  
**【決勝】** 各予選ブロックの1位同士で決勝トーナメントを行う。

## 2 勝敗

- (1) **17枚**を読み上げた時点で、多くの札を取っていた方が勝ちとなる。
- (2) 同数の場合は、「勝敗を決める1枚」として、18枚目を読み上げる。この札を取った方が勝ち、または、この札の読みのお手つきをした方の負けとする。この場合、「勝敗を決める1枚」は取った枚数にはカウントしない。

## 3 競技方法

- (1) 自分の10枚を、横5列、縦2段に置く。自分の札は自分の方に向け、お互いに、札の頭は2cm程度あけるようにする。横は札1枚分の間をあける。
- (2) 札の位置を覚える時間は、1分間。  
このとき、**自札・相手の札を裏返して見ることができる。ただし場所の移動はできない。**
- (3) 競技が始まったら、今読んでいる札を早く取り終えた場合でも、**札を裏返して見ることはできない。**
- (4) 読み手は上の句と下の句を**1回ずつ**読む。
- (5) 札を**払って取ることは禁止**する。(スムーズに競技を進行させるため)
- (6) 両者の手が**同時に**札に触れた(ついた)ときには**ジャンケン**で素早く決める。  
手が上下に重なったときは、下に手がある者が早いものとする。
- (7) 次の札を読み始めたら、自分の手のひらを自分の**ひざかももにつけておく**。手をかざしながら札を探してはいけない。
- (8) 札は、**1度**しか触れてはいけない。したがって、2つ目に触れた札については、何の効力も発生しない。
- (9) 次の札を読み始めたら、その前の札を取ることはできない。前の札は、そのままにしておく。
- (10) 途中の**札移動は、行わない**。

## 4 お手つき

- (1) 間違えた札に触れたら「お手つき」となる。
- (2) 2人の間に、お手つきの札を置くための「場」を作る。
- (3) **お手つきした場合には、自分の取った札から1枚、場に出さなければならない**。なお、場に出した札は、取った札と区別するため、裏返しておく。
- (4) 持ち札が無いときにお手つきが発生した場合は、**1回休み**として次の札は取ることができない。ただし、はじめに札を取るまでに、両者ともお手つきをした場合、両者とも1回休みとなるので、ノーカウントとする。
- (5) 自分の前の10枚でも、相手の前の10枚でも、**どこの札であっても同じようにお手つき**とする。
- (6) **「場」の札は、次の札を取った人が1枚だけもらえる**。
- (7) 「場」に2枚以上あった場合には、その次の札を取った人も1枚もらえることになる。
- (8) 審判から注意されても、その行為をやめない場合は、お手つきとされることがある。

## 5 その他

- ・判定に異議がある場合、競技者は抗議できる。競技者からの抗議がなく次の札に進行している場合は、判定はくつがえらない。